

=====
本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の皆様にお
送りしております。
=====



◆ NEE Mail Magazine 141号 ◆

-----2020-10-1◆◇

10月、神無月。

残暑の8月末に新学期が始まったと思ったら、9月は台風、長雨と低温。10月には、秋晴れの日々を期待したいところです。

政治的には新内閣が発足。アメリカ大統領選挙も目が離せない日々です。経済ではコロナ対策を含めた一連の経済政策がどうなるかこちらも注目です。

中高では、そろそろ経済分野の授業がはじまる時期。大学では後期授業が一部対面を含んでオンラインで再開されます。

そんな今月も、ネットワークの活動報告と授業に役立つ情報をお伝えします。

【今月の内容】

【1】最新活動報告

20年9月の活動やニュースを報告します。

【2】定例部会のご案内・情報紹介

部会の案内、関連団体の活動、ネットワークに関連する情報などを紹介します。

【3】授業のヒント「魅力的なくネタ」の発見から重層的なく問いへ」

【4】授業で役立つ本…今月は二冊

【1】最新活動報告

■東京部会(No.119)を開催しました。

日時:2020年9月5日(土) 15時00分~17時00分

場所:Web会議システム上

内容の概略:参加26名

(1)今回は、大阪部会の先生方も参加し、はじめて参加される先生も二人いて、まず自己紹介を行いました。

(2)コロナ禍における非対面授業の実践報告を4名の先生から受けました。

① 杉田孝之先生(千葉県立津田沼高等学校)「休校下の自由課題から得られた問い」

・コロナ休校中に生徒に出した課題「マスク配付の評価」、「緊急事態宣言の評価」に、生徒が寄せた文章のなかから、問いを抽出した取組みの紹介がありました。

・二つの課題に対してよせられた生徒の反応から抽出した「問い」をさらに深めてゆ

きたいとの報告でした。

- ・質疑では、生徒の問いを、議論にするとしたらどのように議論を回収するのかという質問や、総合学習のなかで取組んで一つのテーマを追究することもよいのではという意見があました。
- ・それに対して、一度だけでなく繰り返すこと、バイキング方式でもいいから、考え続けることが重要であり、社会って面白いかもと感じて教科書を読む生徒ができればよいと思っているとの回答がありました。

②杉浦光紀先生(都立井草高等学校)「ウェブ課題の工夫から今後の授業づくりへ」

- ・休業中のオンライン授業の高校2年生「倫理」での実践の報告で、「「大人」「子ども」を巡る状況」というテーマ部分が紹介されました。
- ・ppによる授業内容の解説、ウェブで提出する課題、自宅での生徒の取組み、googleフォームでの提出、生徒による質問と教師からの回答、生徒の提出した論述内容の分析、生徒の振り返りの結果など一連の授業の流れが紹介されました。
- ・オンライン授業の収穫として、深い理解や表現が予想以上に出てきたこと、回答を共有することで、孤立していた生徒たちが、繋がりや様々な考えを持つ他者と学ぶことを実感しはじめたことなど紹介されました。
- ・また、課題として、この成果を対面授業で生かす方法や、生徒の提出した課題から逆に授業を構想する可能性を追求する事、オンラインに反応しなかった生徒への配慮の必要性があるとまとめられました。
- ・質疑では、対面授業になった時にどのように、オンラインの成果を生かしているのかという質問があり、8月末に実施した「紙上討論」の紹介がありました。
- ・そのほか、オンラインによる学力差はどうなのかという質問があり、深く学ぶ生徒がいても、オンラインの自学自習に乗れない生徒への対応が課題になることが共有されました。

③中原啓太郎先生(中央大学附属横浜中学校・高等学校)「中3オンライン授業(オンデマンド授業)」

- ・中三公民分野での政治学習で、Microsoft teams を使用した、課題指示・動画貼付・解答フォーム貼付などで実施したオンデマンド授業の紹介がありました。
- ・自分でネット環境を使いすぐに調べることができ、分かりにくいところは、何度でも見ることができるというメリットがあるため、公民分野はオンライン授業に向いているのではないかとの評価が報告されました。
- ・また、オンライン授業の課題では、生徒への宿題が多くなりがちで、注意する必要あること、動画を開かない生徒への対応、レポートの意味が理解出来ない生徒や、締切遅れへの対応などがあると指摘もありました。

④埜枝里子先生（都立農業高等学校）「ポストコロナの授業とは」

- ・休業中は紙ベースの課題方式をとったこと、対面授業がはじまってから生徒に採ったアンケートから生徒は基本的に対面授業を望んでいるが、オンラインの補講や授業も望んでいる生徒がいることなどが紹介されました。
- ・復活した対面授業で、「学校において、オンライン環境が整っていない生徒がいる状況でオンライン授業をすべきか否か？」という問いに、8:2でオンライン授業を実施しないことに賛成していて、生徒は、学習環境の違いによる学びの格差に疑問を持っていることなどが紹介されました。
- ・今後、オンライン、オフライン授業など多様な学びが普及していく中で、学びに向かう力、主体性等をどのように評価するか、検討が必要との指摘がありました。
- ・質疑では、これからの評価に関して複数の参加者から話題なり、「生徒ののび」で判断するという見解と、「生徒ののび」でみるのは危険でないかという見解が出され、意見交換が行われました。
- ・評価問題は、別途継続して、研究協議をするということで報告を終了しました。

(3)その他報告がありました。

- ・鈴木深氏（東京証券取引所）からは、コロナ下での東証の学校向けの活動の現状が報告されました。

部会の詳細は以下をご覧ください。

<https://econ-edu.net/wp-content/uploads/2020/09/tokyo119report.pdf>

■札幌部会（No.23）を開催しました。

日時：2020年9月27日（日） 15時00分～17時00分

場所：Web会議システム上

内容の概略：17名参加

- (1)篠原代表から今回の部会のねらいのコメントがありました。
- (2)河原和之先生（立命館大学他）から、「教材発掘から授業構成へのデザイン」として、「コロナ差別」と「消えた天気予報」を題材とした授業紹介がありました。
- (3)新井（目白大学、筑波大学附属中非常勤講師）から、「70歳、中学生に経済を教える」の報告がありました。
- (4)中沖栄さん（清水書院）から、新教材の作成と試行授業への協力依頼がありました。

部会の詳細はまとめ次第HPに掲載いたします。

【 2 】定例部会のご案内・情報紹介

<定例部会のお知らせです。（開催順）>

■大阪部会(No.71)を開催します。(既報)

大阪部会はネット会議にて行います。

日時:2020年10月3日(土) 15時00分~17時00分

場所: Web会議システム上

申し込みは以下からお願いします。

<https://econ-edu.net/wp-content/uploads/2020/07/Osaka71flyer.pdf>

■東京部会(No.120)を開催します。

東京部会は対面による会議とネット会議を組み合わせ実施いたします。

日時:2020年10月24日(土) 15時00分~17時00分

場所:慶應義塾大学三田キャンパス西校舎512教室

入構のための申請手続きなどが必要になり、対面会場は事前申込の方だけとなります。

申し込みは以下からお願いします。

<https://econ-edu.net/wp-content/uploads/2020/10/tokyo120flyer-.pdf>

■札幌部会(No.24)を開催します。

札幌部会はネット会議にて行います。

日時:2020年11月14日(土) 15時00分~17時00分

場所:web会議システム上

申し込みは以下からお願いします。

<https://econ-edu.net/wp-content/uploads/2020/09/Sapporo024flyer.pdf>

<関係団体・メンバーに関するお知らせ>

■金融広報中央委員会主催「先生のための金融教育セミナー」(既報)

金融教育セミナーを、10月中旬からオンデマンド配信で開催します。プログラムの詳細は下記へ。

<https://www.seminar2020.jp/>

■読売新聞より(既報)

・大学入試で取り上げられた読売新聞の記事の分析をまとめた小冊子「大学受験は新聞から」が読売新聞からプレゼントされます。

<https://kyoiku.yomiuri.co.jp/torikumi/nyushi.php>

①郵便番号、住所、氏名を書いた紙(あて先として封筒に貼ります)

②冊数(1人3冊まで)、電話番号を書いた紙、

③送料分の切手(1~2冊140円分、3冊は210円分)を同封し、

〒100-8055(住所不要)読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局「大学受験は新聞から」係まで。

【 3 】授業のヒント 「魅力的なくネタ」の発見から重層的なく問いへ」

執筆者 行壽浩司(福井県美浜町立美浜中学校教諭、兵庫教育大学連合大学院生)

(1) 公民分野の悩み

中学校の公民的分野では憲法の条文に則り、自由権や社会権、参政権などの学習を行う単元が設定されています。授業者としてはどうしても憲法の条文の解説に多くの時間を割いてしまいがちですが、これは避けたい。

法という抽象的な概念から、私たちの生活における様々な場面、具体的な事象へとつなげてゆける授業が求められていると思います。

(2) 社会権を切り口に

社会権の学習では生徒の目が輝くような、魅力的なネタが多くあります。

例えば、団体行動権では、「野球のメジャーリーグで素人を集めて試合をした球団があるか？」。(答え、ある。選手がストライキをして出場を辞退したため。—フジ TV 『トリビアの泉』より)

教育を受ける権利では、「明治時代の小学校の出席簿、この〈黒ちよぼ〉はなに？」(答え、〈黒ちよぼ〉は欠席マーク。このクラスでは 25 人中皆勤はたったの 3 名。女子は全休が 18 人中 13 人。—福井県教育博物館より)

こんなネタによって具体的な事象へと学習が展開してゆきます。

河原和之氏のクーラーと生活保護の関係が問題になった「桶川事件」を扱った実践に触発されて、筆者がこのネタを福井県の公立中学校三年生に対して行いました。

「ガラケーなら固定電話があれば必要ないのではないか」

「スマホがあるなら検索機能があるのでパソコンは必要ないのではないか」

「電子レンジは冷凍食品を食べなければよいのではないか」

「いや、冷凍食品を食べることができないのは健康で文化的な最低限度の生活に反しているのではないか」

「冷凍食品は文化的かもしれないけれど、健康的かという…」と、教員の想定していた以上のものが出てきました。

(3) もう一步深めるために

このような社会権を扱った後に、生存権の考え方や、生活保護という制度について生徒に聞くと、おおむねこの制度に賛成します。しかし、本当にそう思っているのでしょうか。それは「予定調和」的な答えであり、教員のオーダー(言ってほしい模範解答)に答えている「おりこうさん」な答えではないかという疑問が浮かび上がります。

ここでもう一度資料を提示して、生徒の価値判断を揺り動かしたい。

「もしも先生が働けなくなって生活保護を受けたとしたら、健康で文化的な最低限度の生活を営むために必要な金額っていくらだと思っ？」という問いを投げかけます。「健康で文化的な最低限度の生活」をすべての国民が送ることができるのはよい事（善）であり正しい事（正義）であると生徒は思っていけれど、では具体的にどの程度の金額が必要なのか、とさらに問うてゆきます。インターネットのサイトで計算したところ、20代後半の独身男性であれば月約13万円とのことでした。

このネタからさらに二つの問いを導き出すことができます。

一つは、具体的に月13万円が必要だとして、目の前の先生が「健康で文化的な最低限度の生活」を営むためにそれだけの税金をかけることに、あなたはやはり賛成ですか、反対ですか？と問い直す発問です。

「行寿先生だったらクーラーじゃなくて扇風機でよくない？笑」という意見が出てくると教室が盛り上がります。

みんなで笑い合いながら、「そのように人によって判断は変わっていいのかどうか、それこそ人種の違いや性別の違い、身分で判断は変わっていいのか」と、追求していくことで生徒は「う～ん」と考え、近くの生徒とミーティングを始めてゆくのです。

生徒にとって「話し合いたい」と思える問いということだったのでしょう。この問いは、より正義や公正について考え、深めるきっかけになります。

このような学習法は高等学校「公共」の学習にもつながるはずで

(4) ダメ押しの問い

もう一つの問いは、月13万円という金額が「健康で文化的な最低限度の生活」を営むために必要であるとしたら、それ以下の金額で生活している若者の存在は、憲法が保障している生存権の考え方に反しているのではないか、政府はこのような貧困世代を救済する政策をとるべきではないか、という問いです。

そこから絶対的貧困率と相対的貧困率を説明してゆきます。「日本は先進国で豊かな国」という授業を小学校の頃から受けてきた生徒にとって、「日本は貧しい国である」という新しい事実は刺激的なはずで

抽象的な内容理解に終止しがちな公民的分野の学習を、ネタという具体的な事象を通して深めていく。そして「予定調和」的な価値判断意思決定を超えるために、生徒自身の価値判断が揺れるような重層的な問いをたてる。

社会権以外にも魅力的なネタやそこから派生する問いはたくさんあるはずで、それを発見しながら授業をつくってゆければと思っています。

【 4 】授業に役立つ本

1 アセモグル、レイブソン、リスト『入門経済学』（東洋経済新報社）

① どんな本か

- ・アメリカで最近ベストセラーになっている大学初年級向けのテキスト（『ミクロ経済学』と『マクロ経済学』）のエッセンスをまとめた本です。
- ・マンキューの経済学テキスト、スティグリッツのテキスト、クルーグマンのテキストなどベストセラーの入門テキストがありますが、その最新版と言える本です。
- ・著者のうち、アセモグルは、『国家はなぜ衰退するか』（ハヤカワノンフィクション文庫）で有名になったトルコ生まれの MIT の教授です。レイブソンはハーバード大学の行動経済学者。リストはシカゴ大学の実験経済学が専門の経済学者です。
- ・著者三人のプロフィールでも分かるように、新しい経済学の領域の研究者たちが書いたテキストで、新しい知見が随所に取り入れられているのが特色です。

② どんな内容か

- ・本書の構成は大きく三部 15 章からなり、次のようになっています。
- ・第 I 部「経済学への誘い」で、経済学の原理と実践など 4 章からなります。
- ・第 II 部「ミクロ経済学の基礎」で、消費者とインセンティブなど 4 章からなります。
- ・第 III 部「マクロ経済学の基礎」で、国の富など 7 章からなります。

③ 役立つところ

- ・このテキストの売りは「新しい」と「やさしい」というものです。はじめて経済学に挑戦しようとする先生は、「やさしい」という部分に注目して、経済学のイントロダクションとして読まれると、経済学の内容のエッセンスをつかむことができるでしょう。
- ・「新しい」というところでは、各章にあるコラムに注目するとよいかもしれません。「選択の結果」と「データは語る」に近いコラムは類書にもありますが、「EBE (evidence-based-economics 根拠にもとづく経済学)」のコラムは、まさにこの本の売りである「新しい」経済学の知見を反映しています。
- ・このコラムは章の冒頭の問いかけに対応して書かれています。例えば、第 4 章「利己的人間だけがいる市場は社会全体の幸福度を最大化できるか？」に対しては、「EBA 根拠にもとづく経済学」では、実験結果を踏まえた yes という答えが書かれています。
- ・また、マンキューなどのテキストを持っている先生は、比較して記述内容の新しさを確認するのも、時間があれば挑戦してもよいかもしれません。
- ・本当に「新しい」を実感したいなら、今回紹介している『入門経済学』ではなく、『ミクロ経済学』と『マクロ経済学』の二冊を購入した方がオススメです。ただし、二冊買うと 8,360 円かかるだけでなくその厚さに圧倒されますが、中途半端な投資よりコスパはよいはずですよ。

- ・例えば、『入門経済学』では、「外部性と公共財」からはじまる部分以降、市場構造で展開されている「ゲーム理論」、ミクロ経済学の拡張での「情報の経済学」「オークション」などの面白そうな、授業でも紹介できそうな部分がカットされています。
- ・マクロ経済学の部分でも、アセモグルはこの「なぜ豊かな国と貧しい国があるのか」や 45 度線を使わなくなっていると指摘されている「反循環的マクロ経済政策」の部分などは収録されていません。
- ・ちなみに、この種の分厚いテキストを読むには、冒頭の導入エピソードを読み、本文はぱらぱら眺め、コラム、特に「EBA」の部分はしっかり読み、最後のまとめの部分でその章の内容を確認して、復習問題をながめて、わからないところなどがあつたら逆に本文を振り返るといったやり方をすれば、一週間もかからずに全体を「読む」ことができます。
- ・あとは必要に応じて精読すれば良いということです。

④感想

- ・ネットワークの野間先生が、今年テキストに『マクロ経済学』を採用したというお話を聞いて、新しもの好きの新井くんは早速購入しました。ただし、上でも紹介したように『入門経済学』を注文してしまったので、失敗したと反省中。
- ・アセモグルの『国家はなぜ衰退するのか』は、メルマガ 7 月号で紹介した『経済学を味わう』のなかのマクロ経済学の章(楡井誠氏執筆)で参考図書としてあがっていて、イモヅル式読書法でこの夏に読んだ本でした。そのアセモグルのテキストと聞いて、それならということもあり、今回の紹介となった次第。
- ・著者の一人、レイブソンは、2019 年からそれまでマンキューが長年担当してきたハーバードの 100 番台の入門講座を引きついだ人だそうです。マンキューはその前年、「99%運動」に共鳴する学生に授業ボイコットされたことも報じられていて、時代の変化がテキストにも反映されているのかと感じました。
- ・マンキューの「経済学の 10 の原理」は、私たちの世代の教員にとっても親しみ深いものですが、これからはアセモグルらの「最適化」「均衡」「経験主義(実証)」の三つの原理の時代になるのか、興味深いところです。(新井)

2 梶谷真弘著『経済視点で学ぶ歴史の授業』さくら社

①どんな本か

- ・経済の視点を軸に、歴史を学習する考え方や方法を取り入れた授業書です。
- ・著者は中学校の社会の先生。現役の先生が、日々の授業のなかでまとめていった歴史学習論であり、授業のネタ研など各種の授業研究サークルでの研鑽をもとにした実践的な授業書です。

②どんな内容か

- ・全体は 4 章に分かれています。
- ・第 1 章は「歴史の視点を取り入れた歴史学習論」で、なぜ歴史を学ぶのかからはじ

まり、オーセンティック(正当)な学習法、なぜ歴史学習に経済の視点が必要なのかなどが展開されています。

- ・第2章は「歴史学習に取り入れる経済の視点」で、ここでは、学習を「前提」、「意思決定」、「影響」、「経済全体の動き」に発展的に位置付け、「前提」としての希少性とトレードオフ、「意思決定」としてのインセンティブとコスト、「影響」としての市場と交易、「経済全体の動き」としての政府の政策、税、経済システムと領域と視点を整理しています。
- ・第3章は「経済の視点を取り入れた歴史学習法」で、授業構成としてネタ挿入型、単元構成型、カリキュラム構成型の三つを、また、系統的学習の授業、政策評価学習、意思決定学習のそれぞれの授業構成を整理しています。
- ・第4章は、「経済の視点で歴史学習実践」で、古代が 13、中世が 11、近世が 10、近代が 15 の授業案(合計 49 の授業例)が紹介されています。

③感想

- ・これも栗原久先生から、こんな本がでていますよと紹介されて手にとりました。腰巻きには河原先生推薦とあります。
- ・一読、現場の先生がこれだけのものをまとめられたことに脱帽です。特に、経済の視点の歴史授業論と、こんなにたくさんの授業事例をひとりでまとめられたのははじめてなのではないかと思います。
- ・前半の経済概念の整理は、マンキューの「経済学の 10 の原理」をもとに作られていて、よく咀嚼していると感心しました。
- ・ただし、後半の第4章の授業案になると「ちょっと待てよ」となりました。
- ・取り上げられている事例はそれぞれ面白く、ネタとして直ぐに役立ちそうなのですが、歴史学習で一番大事な事実の確認や評価がきわめて甘く、「本当にそう言って良いのか」と思う事例や表現のオーバーランがいくつかの箇所でてくるところが気になりました。
- ・例えば、近代 12 の授業例では日清戦争の戦費を「お酒で賄った」とあります。確かに日清戦争当時の酒税額は相当の額(明治 28 年度 1,774 万 9 千円で 3,869 万 3000 円の地租に次ぎ税収の第二位)ですが、戦費は別立てで予算化(臨時軍事特別会計 2 億 2,500 万円)され、軍事公債(1 億 1,700 万円)が発行されていて、戦費はそこから出ています(金額は、杉山伸也『日本経済史』岩波書店、『近現代日本経済史要覧』東大出版会、国税庁 HP などから)。
- ・当時の歳出規模 1 億 1000 万円あまりに比べて戦費は大変な負担であり、「酒税によって戦費をまかなえるほど、豊かな国民が増えた」というのは明かにミスリードでしょう。
- ・もし日清戦争の戦費について言うなら、日露戦争との対比で、戦争の規模の違い、軍事公債の国内消化と外国債による戦費調達の違い、日清戦争後の酒税を含む各種間接税の増税やその逆進性などに注目させることが経済の観点からは大事なのではと思います。
- ・前半の意欲的な整理に対して、後半の事例の記述がゆるくなってしまう理由は、参

考文献を見ると分かります。少なくとも、学会の定説や実証的な文献と対比して複数の目で参考にした文献を吟味しないと、「生徒をおどろかす」だけで、あやまった歴史認識に導くおそれがあります。

・その意味で、授業に役立てるには、細心の注意が必要な本と言えるかもしれません。

(新井)

【 5 】編集後記「みみずのたはこと」

「役立つ本」の紹介をきっかけにして、ちょっと歴史にはまっています。自宅本棚から何冊か古い本を引っ張り出して、埃よけのマスクをして読んでいます。一番困ったのは、大学の図書館が利用制限されたままなので活用できないことです。公共の図書館は再開していますが、一般書が多く、求めるデータなどが掲載されている専門書がほとんどありません。

「追究の鬼」になるにしても、なかなか大変です。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

https://econ-edu.net/mail_magazine/delivery-application/

◆◇

編集・発行 : 経済教育ネットワーク

----- (C) Network for Economic Education ◆◇